

ロサンゼルス市長らが本学を訪問しました(2011/12/11)

12月11日(日)、ロサンゼルス市長の Antonio R. Villaraigosa 氏ら 15 名が本学・井上総長との懇談のために、本学を訪れました(片平キャンパス, 東北大学本部本館3階, 第二会議室)。井上総長のほか、当センターからは、今村教授, 真野教授, 源栄教授, 佐藤翔助教が訪問の対応に当たりました。

懇談会冒頭、井上総長と Villaraigosa 市長の双方の挨拶があった後、今村教授より、東日本大震災の概要を、地震や津波の観測・解析の結果や、仙台平野における津波防災の歴史、災害科学国際研究所への展開・展望についてのプレゼンテーションがありました。その後、1 時間という短い時間ではありますが、市長ら訪問団の熱心な質問やコメントが相次ぎ、内容の濃い時間となりました。

ロサンゼルス市は、アメリカ西海岸に面しており、環太平洋地震帯に位置する地震多発地域の一つです。1994 年にはノースリッジ地震によって大きな被害を受けました。このような地域と、今回の震災に見舞われた本学がつながりをもつことは大変重要であり、将来の更なる連携や協力に発展することが期待されます。



井上総長の挨拶



Villaraigosa 市長の挨拶



今村教授によるプレゼンテーション
(左側：本学メンバー, 右側：LA 訪問団)



記念品交換
(左：Villaraigosa 市長, 右：井上総長)